

## ～旧約聖書を読んで感じること～ (58) ダビデの最初の妻 王女ミカル

権力者の娘は政略結婚の道具です。最初、サウルは長女をダビデに与えると言ったのに、別の男に与えました。それで次女のミカルの出番となりました。ミカルは密かに喜んだことでしょう。



ダビデとミカルの結婚 Maciejowski (仏) c.1250

その時サウルはミカルがダビデを愛していることを家臣から知らされ、ダビデを殺すには好都合と思いました。ダビデは「王の婿に」と言われた時、自らは身分の低い貧しい人間と思ひ躊躇しました。サウルが結納金など望んでおらず、「敵ペリシテ人の陽皮 100 枚」を条件としたこと、また、戦果で容易く王の婿になれるならば幸いだと思ひ、ダビデは勇んで戦い、倍の 200 枚を献上したのです。そしてミカルを妻としたのです。ダビデは勇敢に戦い続け、サウルに仕えますが、サウルの殺意は変わりませんでした。サウルは悪霊に憑かれた時、傍らで豎琴を奏でるダビデを槍で殺そうとしました。ダビデは逃げ戻りましたが、サウルは使者を遣わして、翌朝殺すように命じました。ミカルはそれを知り、ダビデを急いで逃がしました。



ミカル、ダビデを逃がす Morgan bible

「今夜中に避難して自分の命を守らなければ、明日は殺されます。」ミカルはダビデを窓からつり降ろし、彼は逃げて難を免れた。ミカルはテラフィムを寢床に置き、その頭に山羊の毛をかぶせ、それを着物で覆った。(サム上 19:11)

ミカルは、使者に「彼は病気です」と偽りましたが、欺いたことが分かり、サウルに責められました。ミカルは知恵を絞り、「あの人は、『わたしを逃がせ。さもないとお前を殺す』と脅しました。」と、愛するダビデを悪者に仕立てて、その場を切り抜けました。

ダビデはラマのサムエルの所へ逃げ、サウルの仕打ちを全て告げました。その後ヨナタンと話し合い、サウルの追撃を逃れ、転々と逃げて行かざるを得ませんでした。一方ミカルはサウルにより、ガリム出身のライシュの子、パルティに与えられたのです。年月が過ぎました。

ヘブロンでユダの王となっていたダビデはサウル亡き後、イスラエルの王となりました。王権のため、また人質の意味もあり、ミカルを要求し、ミカルはダビデのもとへ連れ戻されました。その間にダビデは六人の女を妻にし、子供もいました。ミカルはダビデを愛し、父に背いてまでダビデを救った王女です。父の命じるまま生き、家族を失い、今更、ダビデの愛も望めず、涙を押し殺し、石のように硬く心を閉ざし、孤独に生きていたのでしょうか。王女の誇りだけがミカルを立たせていました。

ダビデが「神の箱」をエルサレムへ運び上げた時です。窓からこの行進を見て、ダビデが喜び、力の限りに跳ね踊る様子を見て、蔑みを覚えました。貴公子の風貌を持つ、自尊心の高い父サウルに比べ、下々の者と何ら変わらない風采、行動を人前で晒したダビデにミカルは言い放ちました。

「今日のイスラエル王は御立派でした。家臣のはしためたちの前で裸になられたのですから。空っぽの男が恥ずかしげもなく裸になるように。」(サム下 6:20)ダビデは屈折したミカルの気持ちを理解できる男ではありません。「そうだ。お前の父やその家のだれでもなく、このわたしを選んで、主の民イスラエルの指導者として立ててくださった主の御前で、その主の御前でわたしは踊ったのだ。わたしはもっと卑しめられ、自分の目にも低い者となろう。しかし、お前の言うはしためたちからは、敬われるだろう。」(サム下 6:21)ダビデにとって、神の前に自分を開け放ち、神を喜ぶ民と共にある一体感こそ、生きる喜びだったのです。王女ミカルは子を持つことのないまま、死の日を迎えたと記されています。